はじめに

2016年3月をもって、立命館大学の人間科学研究所の傘下にある高齢者プロジェクトは、活動を停止します。このプロジェクトは、2001年に文学部心理学科(当時)の教員3人の発案で始まり、それから15年間という長きにわたって活発な活動を展開してきました。第2部の活動の歴史にあるように、最初は高齢者施設でこの活動が始まりました。これは、後で学習療法と呼ばれることになる音読と計算という課題を主な柱とした活動です。2006年には、立命館大学の中で地域の高齢者を対象にして、外来的に大学に通ってもらいながら活動を展開することになりました。さらに翌年からは、市役所と協同して、地域での活動に活動が広がり、現在でも高齢者施設、立命館大学、地域での活動は、休むことなく継続されています。この長い活動の中では、大学当局、人間科学研究所、京都市北区役所、左京区役所、病院、地域の諸団体など、さまざまな幅広い組織にお世話になりました。大学での活動ですので、基本は研究です。この長い間にさまざまな研究が行われ、2013年度―2015年度は、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「インクルーシブ社会に向けた支援の＜学＝実＞連環型研究」の予見的支援チームの活動として研究を実施しました。その結果は、第3部の研究紹介および第4部の資料にもありますように、それなりの業績が積み重ねられています。

こうした活動が長期にわたってしっかりと展開されてきたのは、教員、運営委員の皆様の尽力のお陰です。しかし、基本的には、この活動に学習者として参加していただいた施設に入居している高齢者、地域で健康に暮らしている方々、それにサポーターとしてボランティアで活動いただいたさまざまな人、また以前に運営委員やサポーターをやられた方、加えてこの活動に興味を持ち活動に参加していただいた学生・院生、さらにインターンシップとして参加した学生諸君、じつにたくさんの人によって支えられた活動でした。

文学部の心理学専攻が、今回、大阪いばらきキャンパスに総合心理学部として独立するのに伴い、残念ではありますが、この活動を終わることになりました。これまでお世話になりましたさまざまな方に、高齢者プロジェクトを代表

して感謝を表明し、挨拶とさせていただきます。

高齢者プロジェクト代表
吉田　　甫